



第 2 5 号

令和2年3月31日  
岩手県長寿社会課

## 自立支援型地域ケア会議活用フォーラム

～育む。おらほの町の地域ケア会議～

の巻

市町村等保険者においては、高齢者のQOLを図るため、「多職種が参加する自立支援型地域ケア会議」を活用して、より効果的なケアマネジメントを推進することが求められているところです。県では、地域の実情に合わせた自立支援型地域ケア会議の導入促進と活性化を図ることを目的として、令和2年2月10日に「自立支援型地域ケア会議活用フォーラム」を開催しましたので、その様子をお知らせします。

令和2年2月10日、岩手県水産会館を会場にフォーラムを開催しました。当日は雪が降り足元の悪い中、各市町村から111名もの大勢の方々にご参加いただきました。

### 「自立支援型地域ケア会議導入市町の取組紹介」

西和賀町健康福祉課長兼地域包括支援センター所長の深澤千里氏、二戸市地域包括支援センター所長の工藤由貴氏から、それぞれの市町での取組内容を紹介していただきました。

(西和賀町の取組紹介)

西和賀町は、平成30年度からアドバイザーを招いて自立支援型サービスへの転換を目指した様々な取組を実施されています。今回の講演では自立支援型地域ケア会議の導入に至った経緯と、実施した取組の内容について発表してくださいました。

西和賀町では高齢化に伴い介護保険等の費用が増加していくことが想定されることから、「介護保険制度の適正運用」、「ケア会議の充実」、「自立支援、介護予防・重度化防止の推進」を目標として取り組むこととしたそうです。

そして、金ケ崎町が(株)アドウィルの山本敏幸氏を招き、様々な取組を実施している話を聞き、西和賀町でも平成30年度から、山本氏に介護政策アドバイザーに就任していただきました。山本氏就任後、まずは介護保険法の原点に立ち返り、これまでのお世話型の介護から自立支援型ケアマネジメントへの転換を始めたとのことでした。

具体的な取組としては、まず町内の居宅介護支援事業所や介護サービス事業所を対象とした自立支援型ケアマネジメント研修をそれぞれに開催し、その中で学んだことを踏まえ、自立支援地域ケア会議の導入に向け、多職種が参加した自立支援型地域ケア会議の一連の流れを体感する「模擬地域ケア会議」にも取り組んだそうです。今年度5月から自立支援ケア会議を開催し、これにより研修会の参加者が高齢者の自立支援の観点からケアプランの見直しができるようになるなど成果が表れているそうです。

来年度も介護政策アドバイザー指導の下、上記研修や自立支援型地域ケア会議の取組を通して西和賀町全体のケアプラン作成技術の底上げを行っていききたいとのことでした。



### （二戸市の取組紹介）

二戸市では、令和2年度からの自立支援型地域ケア会議の導入を計画されています。今回は、導入を決めた経緯とこれまでの取組について発表してくださいました。

二戸市では要介護・要支援等の高齢者のケースを対象とした地域ケア会議が以前から開催されてきました。平成30年度に県が主催した「自立支援型地域ケア会議専門職セミナー」に参加したことをきっかけとして、自立支援型地域ケア会議の導入を決め、まずは参加者を集めるところからスタートしたそうです。

次に、自立支援型地域ケア会議を既に導入している花巻市を視察し情報収集を行ったそうです。今年度後半には、栄養士や歯科衛生士など多職種による模擬会議を実施するなどして、会議方法の検討を行っているとのことでした。



工藤由貴氏

### （アドバイザーからのご意見）

お二方の発表後に、アドバイザー（金ケ崎町保健福祉センター主任看護師 山田洋子氏、花巻市健康福祉部長寿福祉課主査 晴山弥子氏）からご意見をいただきました。

山田氏からは、金ケ崎町では地域ケア会議を開催することを目的とせずケアマネジメントの質を高めることを考えて取組を行っているとのことのお話があり、地域ケア会議という仕組みに目が向きがちですが、常に地域課題の解決という目的を忘れないことの大切さについてアドバイスいただきました。

晴山氏からは、自立支援型地域ケア会議の導入により、該当者の業務が増加するということが言われるが、何のためにこのようなことをやるのかという目的と理由を担当部局内や地域ケア会議に参加する多職種の方々と共有することが大事であるとのアドバイスをいただきました。



左から、晴山弥子氏、山田洋子氏

## 「自立支援型地域ケア会議における各職種の見点と役割」

自立支援型地域ケア会議の意義を理解し、効果的に運営するためには、会議に参加する専門員の見点と役割を理解することが必要です。岩手県作業療法士会盛岡支部長 澤口和之氏、県立中部病院栄養管理科長 伊藤美穂子氏、花巻市薬剤師会常務理事 高橋涼太氏、金ケ崎町社会福祉協議会指定居宅介護支援事業所管理者 高橋奈歩氏から、自立支援型地域ケア会議における各職種の視点と役割というテーマで発表していただきました。

(リハビリテーション職：澤口和之氏)

自立支援型地域ケア会議におけるリハビリテーション職の役割は、生活課題の分析、個別特性に応じた自立支援、利用者の社会参加に向けた支援の3つであるとのことでした。

次に、視点としては、利用者の現在の状況をもたらした真の課題を探しだすこと、利用者の最善の利益を目指すこと、利用者の主体的な意欲を促し、自立に向けたサポートを目指すこと、適切な分析・評価ができるように目標を明確化することであるとのことでした。



(管理栄養士：伊藤美穂子氏)

自立支援型地域ケア会議における管理栄養士の役割は、身体状況と栄養状態などに応じた、療養、健康の保持増進のための栄養支援を行うことであるとのことでした。

また、視点としては、利用者が食事を“食べないのか、食べることができないのか、食べたくないのか”を見極め、食事を摂らない原因を探り、自分で食べることができる手段と調理する人に負担がかからず継続できる手段を提案することであるとのことでした。



(薬剤師：高橋涼太氏)

薬剤師の役割は、薬と薬を使用する人について考えることであり、利用者について他職種から情報を得ることによって効果的な支援ができるため、地域ケア会議に薬剤師が参加し、情報交換することは地域と薬剤師双方にメリットがあるとのことでした。

そのため、地域の薬剤師に声掛けし、訪問薬剤指導について気軽に相談するなど、積極的に薬剤師を活用してほしいとお話しされました。







(ケアマネジャー：高橋奈歩氏)

金ケ崎町の自立支援型地域ケア会議に立ち上げから携わった経験を踏まえて、導入する前から参加者には会議の意図とメリットを説明し、双方納得のもとに導入を進める必要があるとお話されました。

また、自立支援型地域ケア会議には、「アセスメント・ケアプランの標準化」、「成功体験によるモチベーションの上昇」の効果があり、ケアマネジャーの学びと評価を受ける良い機会にすることで参加意欲が湧くとお話されました。

### 「各市町村の情報交換」

最後に、参加者でグループを作り、グループ内で情報交換を実施していただきました。自立支援型地域ケア会議を導入した際に考えられる効果や、導入までに起こりうる課題、仕事上の悩みなど多岐にわたる内容について、活発な情報交換が行われました。



## ～編集後記～

「ちいきで包む第25号」をご覧いただきありがとうございます。今回は令和2年2月10日に開催した県主催の自立支援型地域ケア会議活用フォーラムの内容について紹介させていただきました。

当日御講演いただいた講師とアドバイザーの方々、お忙しい中ご参加いただいた方々に、この場を借りて改めて感謝申し上げます。当日は100名を超える方にご参加いただき、自立支援型地域ケア会議への関心の高さと参加者の方々の地域を良くしようという意欲を強く感じました。

今回、私自身もフォーラムを通して地域の取組や多職種の視点、役割など多くの情報と気づきを得ることができました。

アンケートでは、他の市町村の取組や専門職の話など普段聞くことのない話を聞くことができ参考になったとのご意見が多かった一方、他の市町村の様々な職種の方が集まる機会であり、もっと長く情報交換会をしたかったなどの積極的なご意見もいただきました。

今回のフォーラムのように、今後も皆さんの地域での活動に生かすことができるような取組を実施していきたいと思えます。(こ)

## がんばる地域の情報、大募集！

「ちいきで包む」は、岩手県内市町村の地域包括ケアシステム構築をアシストするため、各地の特色ある取組や、関係する情報を発信する情報紙です。

企画・発行（問合せ先）

岩手県保健福祉部長寿社会課（本号担当：駒木・加藤） 令和2年3月31日発行

TEL:019-629-5432 FAX:019-629-5439 E-mail:AD0005@pref.iwate.jp